

高等学校における長距離歩行行事の意義と運営上の問題点およびその対処方法

スポーツビジネス研究領域

5007A0120-6 木内虹平

研究指導教員： 中村好男教授

第1章 序論

学習指導要領(文部科学省、2003)によると、健康安全・体育的行事は「心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。」が目標として定められている。体育行事の中でも、歩くことが人の最も基本的な動作であることから、歩行行事は体育行事として重要な役割を果たすものと考えられる。また、「歩育」の観点からも、体育行事としての長距離歩行行事の重要性に言及することが出来る。

しかし、昨今の体育行事は、学校制度改革や周辺環境の変化により削減・縮小の傾向にあるが、高等学校での体育行事は、学習指導要領に記されているように様々な恩恵を得られるものであることから、今後も継続的に長距離歩行行事を実施していく必要があるだろう。

そこで、本研究では、現在の長距離歩行行事の実施状況を調査した(研究Ⅰ)。さらに、長距離歩行行事を実施している高等学校が行事にどのような魅力持ち、行事の問題点およびその対処方法を調査した(研究Ⅱ)。

第2章 研究Ⅰ

1. 目的

インターネットを利用して各高等学校のホームページを調査し、マラソン大会と比較検討から、全国の高等学校における長距離歩行行事の実施状況を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

全国47都道府県の高等学校(5058校)を対象に、インターネットに掲載されている各高等学校の公式ホームページより調査した。本研究では5年制の高等専門学校、通信制高等学校、夜間の定時制高校は除外

した。

調査内容は、長距離歩行もしくはマラソンの実施状況、創立年度、実施距離を調査した。

3. 結果

全国5058校の高等学校の実施状況は、長距離歩行446校(8.8%)、マラソン1287校(25.4%)、不記載3283校(64.9%)、不明42校(0.8%)であった(図1)。また、地域別において実施率差に差は見られず、創立年度とも関連が見られなかった。

実施距離については、長距離歩行の平均距離は男子 $28.9 \pm 15.8\text{km}$ 、女子 $26.9 \pm 13.9\text{km}$ 、マラソン大会は男子 $10.6 \pm 5.1\text{km}$ 、女子 $7.3 \pm 4.9\text{km}$ であった。

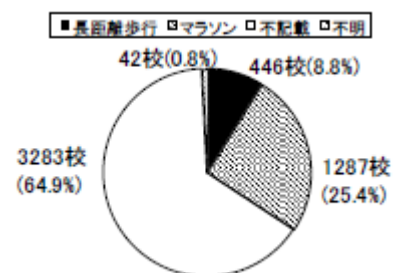


図1. 高等学校の実施状況

4. 考察

本研究の結果から、長距離歩行の実施率は、創立年度や地域差は見られなかった。都道府県ごとにみると、40%以上の高等学校が実施している都道府県もあれば、1校も実施していない、またはマラソン大会を実施している高等学校があることが明らかとなった。

第3章 研究Ⅱ

1. 目的

現在、長距離歩行行事を継続的に実施している高等学校が、今後も継続的に実施できるような情報を提供するために、現在長距離歩行行事にどのような魅力持ち、現在までに起きた問題点に対しどのように対処してきたのかを調査することを目的とした。

2. 方法

研究 I で明らかになった長距離歩行行事を実施している高等学校445 校の中から、本調査への協力に同意が得られた214 校(48.1%)を対象に質問紙調査を行い、回答を得られた117 校(54.7%) を分析対象とした。質問紙は、長距離歩行行事担当者が回答するように依頼し、質問項目は、先行研究(下田、1999;池田ら、2007)と 学習指導要領(文部科学省、2003)を基に作成した。

3. 結果

「長距離歩行行事から生徒が得られるもの、もしくは魅力」については、「心身の健全な発達を促す」が86校(73.5%)と最も回答を得られた(表1)。

また、「長距離歩行行事を運営していくにあたって、困難を生じる点」では、「行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい」が69 校(59.0%)で、最も回答数が多かった(表2)。この問題点に対する対処方法として、教職員や保護者、地域、警察などによる交通整理という方略がとられていることが自由記述より得られた。

4. 考察

行事自体の意義・魅力として、心身の健全な成長、友人とのコミュニケーション、達成感といった内容が挙げられていた。また、行事中の安全対策や事故防止のために、地域住民と協力して行事を運営していることが示された。

表1 生徒が行事から得られるもの(N=117)の単純集計結果

	N(%)
心身の健全な発達を促す	86 (73.5)
活力のある生活を生み出す態度を育てる	55 (47.0)
運動から人間関係の構築を図れる	48 (41.0)
集団での団結力を身につけられる	42 (35.9)
運動に対する関心や意欲の向上につながる	28 (23.9)
生徒の体育授業の成績発表の場として活用できる	16 (13.7)
運動習慣が身につく	10 (8.5)
その他	21 (17.9)

表2. 運営していくにあたって困難を生じる点(N=117)の単純集計結果

	N(%)
行事を実施する上での安全面での交通整備が難しい	69 (59.0)
行事実施中の事故	33 (28.2)
運営協力者の人数の少ない	30 (25.6)
生徒の行事に対する意欲が低下したこと	12 (10.3)
週5日制による体育行事削減への対応	10 (8.5)
他の体育行事との兼ね合い	6 (5.1)
地域住民の理解が足りない	4 (3.4)
その他	17 (14.5)

第4章 総合論議

本研究で得られた問題点における対処方法によって、現在長距離歩行行事を実施している高等学校が、今後も継続的な実施が出来る可能性がある。また、本研究で取り上げられなかった問題点に対しても、高等学校間で積極的な情報交換をしながら解決していくことが必要になるだろう。

今後、長距離歩行行事の継続的な実施をすることによって、高等学校における長距離歩行行事を通じた歩行教育の普及につながると考えられる。

文献

- ・池田克紀・室星隆吾・阿部博之・沼田晶弘(2007). ウォーキング研究, 11, 101-106.
- ・下田将美 (1999). 関東地区高等学校保健体育研究, 64-70.
- ・文部科学省 (2003). 新学習指導要領 高等学校 学習指導要領.